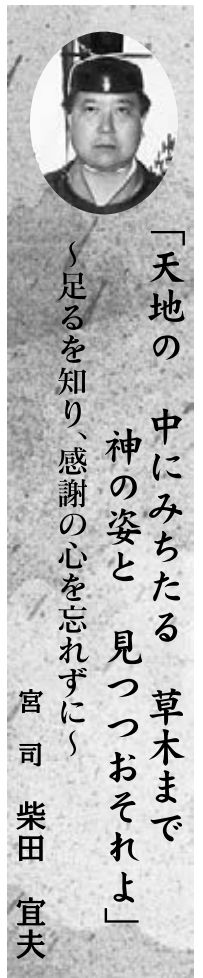




産土



彦島八幡宮社報
第 51 号



「天地の 中にみちたる 草木まで
神の姿と 見つつおそれよ」

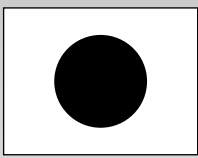
宮司 柴田 宜夫

宮司の柴田です。平素は、氏子崇敬者の皆様方には、当八幡宮運営に関します事や、さらには、祭典行事等の齎行につきまして、格別のご配慮ご理解を賜り、お力添え下さいまして、心から感謝申し上げます。宮司を拝命して、今月で十一年を迎えますが、微力ではあります、大過なく、御奉仕できましたのも、偏に、皆様方のお支えの賜物です。重ねて厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

頭書(とうしょ)の和歌は、文明十八年(一、四六八年)に、卜部兼邦(うらべかねくに)が、京都吉田神社に願を立て、百首の和歌を詠まれたなかの一首です。過日の平成二十八年熊本地震、人の力の及ばざる大自然の恐ろしさを痛感させられました。被災された方々に、心からお見舞いを申し上げますと共に、一日も早い復興を心から願うものです。和歌に詠まれていますように、自然に生育している草木に至るまで、神様の姿そのものなのです。私共は、今ある命に感謝をして、謙虚に慎み深く、大自然の恵みを恐れ敬う、「畏(かしこ)む」という心を忘れてはならないと思います。

吉田松陰先生は、「足るを知らなければ満足はなく、満足を知らなければ感謝の念の湧きようもない」と語られたそうです。人間の欲望には限度がなく、一つの物を得れば、又次の物を欲しくなるのです。相田みつをさんも、「幸せはいつも自分の心が決める」という詩を残していらっしやいます。自分の心が、足るを知り満足を感ずる感謝の心を育(はぐく)むのではないのでしょうか。裏千家前家元の千玄室さんも、「足るを知り、自分の生きる道を見つけ、前向きに生きる、それが幸せ」と仰(おっしゃ)っています。神社神道の三本柱は、大自然を大切に、人々とのつながりを大事にする、そして、前向きな気持ちで人生を楽しむことです。

吉田松陰先生は、「足るを知らない人間は生涯幸福にはなり得ない」とも語られています。冒頭の和歌にあるように、神の姿と見つつ恐れる、謙虚な気持ちで、足るを知り満足をすることを喜びつつ、前向きに生活をする、それが、幸せへの道のりではないでしょうか。



祝祭日には

国旗を揚げましょう



回第二二二号(平成二十八年三月十四日)

◇日本の神々の祭りというのは、古代から、古式ゆかしく、連綿(れんめんと)として受け継がれてきました。その営みのなかで、最も大切なことが、生々(せいせい)はつてんです。まさに、絶えず勢よく発展してきたこと

◇さて、私は「万年筆を好んで使っております。先代典行宮司の形見のもの、お祝いで頂戴したのも、長男明典からの父の日のプレゼント等、インクも黒はもちろん、赤、さらに青まで勢ぞろいです。一番のお気に入り

◇実は、日本には、戦乱もなく穏やかで安定した平和な時代がありました。平成二十三年、月発行の宮司プレス五十六号にも詳しく記述しましたが、平安時代から、保元の乱までの三百五十年間、そして、江戸時代の二百五十年間です。この時代のことを、ラテン語で「パクス、ヤポニカ」といわれています。

◇明治維新までの日本は、日本の心を大切にしつつ、中国からの文化を柔軟に吸収する、「和魂漢才(わこんかんさい)」という姿勢をたもててまいりました。西洋の文明も同じ姿勢、「和魂洋才(わこんようさい)」です。

◇日本人の心、和魂を失わず、「パクス、ヤポニカ」の奇跡を起した日本人の底力ともいべき「柔軟性」と「従順さ」でもって、共に手を携え、苦難を乗り越えていかなければと思います。「天下布武」ならぬ七徳を備え

◇神社神道は、「つながりの宗教」です。神様、大自然、地域社会の人々と「つながり」「つなぐ」「お役目」「中執(なかとり)持ち」を果たさねばと思ひます。

回第二二三号(平成二十八年四月二十一日)

◇昨日は、二十四節季(せつき)のひとつで、春の季節の中で最後の節季でもある、穀雨(こくう)でした。春雨が降って百穀(ひやくこく)、いろいろの穀物を潤(うる)うるお(す)という意味です。今日は、まさに、春雨であります

◇社報「産土」第五十号の巻頭言にも記述しましたが、わが国は、今年、中国そして、不安定な金融システムさらに、天変地異という三つのリスクへの備えが必要なのだそうである。中国の経済成長が減速しています

◇津田塾大学教授、疫(えき)なき(疫)なき学者の三砂(みさ)ちづるさんは、「女が女になること」の著作のなかで、「我々は、単独でこの世に存在しているわけではなく、つながりの中に、この自然の中で、許されてあり、生かされている。何か大きな存在の一部として存在している」と、書かれています

◇発行の遅れを取り戻すことができないままに、徒(いた)す(ら)に時を過(と)してしまふのが、ルーティン、いつもと変わらない日常、悪しき習慣となりつつあります。過日(かじつ)、衣替(ころもがえ)をおこないました。立夏(りきか)と立冬(りゅうとう)で行っています

回第二二四号(平成二十八年五月二十一日)

◇発行の遅れを取り戻すことができないままに、徒(いた)す(ら)に時を過(と)してしまふのが、ルーティン、いつもと変わらない日常、悪しき習慣となりつつあります。過日(かじつ)、衣替(ころもがえ)をおこないました。立夏(りきか)と立冬(りゅうとう)で行っています

◇さて、同じ彦島のお神輿の御巡幸も、各地で流儀(りゅうぎ)ゆきが若干違(ちが)います。最初から最後まで、伊勢音頭(いせおんず)で、お神輿(かみこ)を練(ね)るのは、田の首八幡宮(のくぼやわた)だけです

◇「チヨウサヤ」という掛け声です。この「チヨウサヤ」は、関西中心の共通の掛け声とされる「ちようさやようさや」の変形だと考えられます。関東は「わつしよい」が主流です。北原白秋作詩の童謡「東京日枝神社の祭り」が題材ですが、やはり、「わつしよい」です。室町時代までは、「えいさらえいさ」が全国共通だったようです

◇熊本地震発生から、ちょうど1ヶ月を迎えた過日の福浦金刀比羅宮のお神輿の巡幸も、無事に厳かに執り修めました。祭りは、神様と私共が、真に釣り合(な)っている状態、神様をお願いをして、その約束を反故(は)にしないよう努力することを誓い、その過程に神様のご加護を願うのです。必ずしも、思ひ出しの結果に至らなくても、今の現状に感謝をし、前向きな気持ちになって生活をする、これこそが、真に釣り合(な)っている「祭り」なのだと思います

社務日誌抄

(本宮祭典諸行事厳修報告)

—平成二十八年一月～六月—

▼睦月(一月)

- 一日 初太鼓 歳旦祭
- 三日 元始祭
- 七日 人日節句祭
- 十七日 どんと焼き

▼如月(二月)

- 三日 節分祭追儺式
- 十一日 紀元祭建国奉祝祭
- 十七日 祈年祭
- 十七日 横浜DNAベイスターズ必勝祈願祭

▼弥生(三月)

- 三日 上巳節句祭
- 四日 防衛省海上自衛隊第二ミサイル艇隊
- 「おおたか」「しらたか」御二行昇殿参拝



- 二十一日 春季祖霊祭並びに神道総会
- 三十日 防衛省海上自衛隊敷設艦「むろと」御二行昇殿参拝

▼卯月(四月)

- 一日 勸学祭
- 三日 神武天皇祭・畝傍山東北陵遥拝式
- 四日 彦島八幡宮維蘇志会昇殿参拝並びに総会
- 六日 下関西ロータリークラブ
- 十七日 第五十回彦島地区戦没者慰霊祭
- 二十四日 彦島八幡宮敬神婦人会昇殿参拝並総会
- 二十九日 昭和祭



▼皐月(五月)

- 五日 立夏更衣祭並びに端午節句祭
- 二十七日 彦島八幡宮奉賛会昇殿参拝並びに理事総会

▼水無月(六月)

- 二十九日 第一回茅の輪奉製作業
- 三十日 水無月大祓式

新年御供米料奉献会社御芳名

(※順不同、敬称略)

- 池田興業(株)下関支店
- (株)中冷
- 青木鉄工(株)
- 大久保本店
- (株)田原工務店
- ジャパンマリン(株)
- タナカ機工(株)
- キャボットジャパン(株)下関工場
- (株)マルゲン包材
- 農水フーズ(株)
- 下関唐戸魚市場(株)
- (有)上釜電機商会
- 高保工業(株)
- 大田造船(株)
- 三菱重工(株)下関造船所
- (株)大伸運輸
- 山口整形外科
- 下関農業協同組合彦島支所
- 西和建工(株)
- (株)大庭工務店
- (株)西中国信用金庫西山支店
- (有)ライフクリーニング
- 和田電機(株)
- (株)三宅商店
- (株)山口銀行彦島支店
- (株)山口工業(株)
- (株)ユキテクノ
- チヨダウーテ(株)下関工場
- テラーしばた
- (株)サントー
- 三池屋
- 古賀産業(株)
- (有)平田工業所
- (有)岩原クリーニング工業所
- (株)下関ユアサ建材
- 日新リフラテック(株)
- 山口県漁業協同組合下関南風泊支店
- 植田木材(株)
- 関門三協工業(株)
- (有)ライス&ミルク上村
- (有)植田商会
- (有)オカダ工房
- (株)共立機械製作所下関工場
- (株)室田組
- (株)広洋エレクトリック
- みなと不動産
- 熊本敦子
- (株)ナカハラプリンテックス

*御献納賜りまして厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

平成二十八年

節分祭御協賛会社御芳名

平成二十八年節分祭斎行にあたりまして左記の通り多大な御協賛を賜りました。

(※順不同、敬称略)

【設営協賛の部】

- ▼舞台花道設営 (株)新原工業
- ▼照明設備 (有)タツミ電工

【協賛金の部】

- 下関三井化学(株)
- 彦島製錬(株)
- キャボットジャパン(株)下関工場
- オルネクスジャパン(株)下関工場
- 三菱重工(株)下関造船所
- 菱重ファシリティー&プロパティーズ(株)西日本支社
- サンセイ(株)下関工場
- (株)前田造船所
- 東海電機(株)
- 日新リフラテック(株)
- 下関唐戸魚市場(株)
- 協立運輸商事(株)
- 池田興業(株)下関支店
- 西和建工(株)
- アルギン(株)
- ジャパンマリン(株)
- 青木鉄工(株)
- (株)田原工務店
- (株)ユキテクノ
- (株)大庭工務店
- タナカ機工(有)
- 西京銀行彦島支店
- 西中国信用金庫西山支店
- (株)山口銀行彦島支店
- (株)ナカハラプリンテックス





彦島八幡宮社報「産土」に寄せた

下関市長 中尾 友 昭

まずは、この度、彦島八幡宮社報「産土」に寄稿の栄を賜りましたことに、心より御礼申し上げます。また、彦島地区の皆様には、平素から市政全般にわたり、格別のご理解とご協力を賜りまして、深く感謝申し上げます。

さて、我が国は本格的な人口減少の局面を迎えており、本市におきましても、この人口減少は、深刻な問題であります。こうした状況を踏まえ、本市は、昨年10月に「下関市人口ビジョン」に加え、「下関市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、次の3点に取組を集約しました。

1点目は「まち」であります。持続可能な地域社会の実現には、多彩な特色を持つ市内各地域が、それぞれの強みを活かしていくことが重要です。そこで大きな柱となるのが「住民自治によるまちづくり」であります。現在、各地区で設立されている「まちづくり協議会」と行政との協働により、それぞれの地域の課題を解決し、地域力の維持と再生を目指してまいります。

2点目は「ひと」であります。人口減少に歯止めをかけるため、子育てがしやすく、健康でいきいきと暮らせる環境づくりを進めてまいります。また、地域の活力を確保するためには、下関に集う人、いわゆる交流人口を増加させる取組も必要であります。本市の多様な地域資源を活かした観光イベントの実施やコンベンション誘致を積極的に進め、交流人口の拡大を図ってまいります。

3点目は「しごと」であります。下関で暮らす人、いわゆる定住人口の確保にあたっては、働く場があるということが最も重要であります。そのため、市外企業の誘致や市内企業の設備投資を促進し、多様な産業がある本市の経済を強化することで、就業機会の拡大に努めてまいります。

以上の点を踏まえ、本年度につきましては、それぞれ「住民自治によるまちづくりの推進」、「育児環境の充実による子育て世帯の負担軽減」、「地域産業の育成強化」による就業機会の拡大の3項目に特に重点を置いて施策を展開してまいります。本市といたしましては、皆様のお力添えを賜りながら、職員一丸となって、元

気な下関の創造を目指してまいります。皆様方におかれましては、彦島地区をはじめ下関市のさらなる発展のため、引き続き、温かいご支援とご協力を賜りますよう、よろしく、お願い申し上げます。最後になりましたが、彦島八幡宮、並びに彦島地区の一層のご発展と、彦島地区の皆様方の今後ますますのご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。拙稿の結びとさせていただきます。

皇統 建国の始祖

第一代神武天皇式千六百年式年祭

我が国の第一代天皇であらせられる神武天皇様が崩御あそばされてより式千六百年の式年を迎える本年、即位され国礎が建てられた建国の原点 檀原神宮(奈良県檀原市鎮座) 畝傍山東北陵におきまして四月三日 神武天皇式千六百年式年祭が厳粛に斎行されました。天皇陛下の御親拝に続き皇后陛下も御拝礼あそばされました。当宮におきましても、宮司以下総員にて早朝遙拝し、神武天皇様のご聖徳を偲ぶと共に御事績を顕彰する一念でお仕え申し上げました。

神武天皇様は即位前、「神倭伊波礼毘古命」と称えられ、瓊瓊杵尊が降臨された日向国高千穂宮(宮崎県)に有らせられたが、国土全土を王化していない中で、東へ大業広げ天下を治めるに相応しく美しい地を都にするべきであるとして東遷の途に高千穂をお発ちあそばされました(神武東征)。途中幾多の困難を経て大和国を中心とした豊葦原中国(日本の国土)を平定し、畝傍山 檀原の地において即位の礼をあげられました。「六合を兼ねて都を開き八紘をおほいて宇となさむ」との詔を下され、国の礎が建てられた経緯があります。

現在の檀原神宮は明治期に入り、神武天皇様の御聖徳を景迎して檀原宮跡に神宮創建請願が民間から起こり、明治天皇様が元京都御所の賢所と神嘉殿を本殿と神楽殿(御饗殿・平成五年焼失)として下賜され、明治二十三年四月官幣大社 檀原神宮として創建されました。紀元(皇紀)

式千六百年に記念事業として境内地、社殿等々が整備拡充され、雄大かつ荘厳な規模に改修されました。

我が国は本年度紀元(皇紀)式千六百七拾六年を迎え、世界に冠たる歴史を有する国家であります。先の大戦後、神道指令(国家神道、神社神道ニ対スル政府ノ保証、支援保全、監督並ニ弘布ノ廃止ニ関スル件)の影響により、神話や伝承文化をはじめ神道に関連するものは一切排除を余儀なくされ信



仰そのものが侵された時期もありました。誇りを失いかけた激動の時代を経て、日本人としての精神性は我々の血脈の中に生き続いています。来る紀元(皇紀)式千七百年が国民挙つての奉祝祭典として執行されることを祈念しつつ、本年が建国以来の神話、歴史に関心を持ち、我が国の根幹を今度見直す節目の年となる時流を生み出したいものです。

明治天皇御製

檀原のとはつみおやの宮柱
たてそめしより国はうごかず
檀原の宮のおきてにもとづきて
わが日本の国をたもたむ



末社便り

平成二十八年四月十六日(土)

舟島神社例祭並びに佐々木小次郎 大人命慰霊祭厳修

慶長十七(一、六二二)年四月十三日、当時豊

前小倉藩領の船島(現、下関市大字彦島字船島)

であったこの地において、佐々木小次郎と宮本武蔵が決闘して本年は四百四年の年でありました。本年も、小次郎の流儀「巖流」を継承され国内外でご活躍中の武道和良久 前田比良聖先生以下門下御一同による演武、裏千家 淡交会代議員・東京第六西支部副支部長 出口光先生による献茶や地元 正真流吟剣詩舞道の児童による剣舞が奉納され大人命もさぞやご満悦の事と察しました。



「佐々木小次郎の不思議な木剣」

一般社団法人 メキキの会 出口光

「武蔵、遅いぞ！」

焦れた小次郎の刀の閃に武蔵は飛び上がり小次郎の頭に木刀が沈んだ。そして小次郎は敗れた。吉川英治の「武蔵」を読んだことのある人なら、こんなイメージを描

いているのではないだろうか。

没後四百四年にあたる巖流島での佐々木小次郎慰霊祭で、お献茶をさせて頂きました。大変光栄な機会を頂きました。

これは言霊の武道「和良久」の

前田比良聖先生のご縁でした。私は、以前から前田先生から全く異なる話を聞いていました。その話とは、細川藩の藩士たちが舟島で待ち伏せをして小次郎を襲い葬ったと。しかも木刀を使ったのは小次郎であるという。武蔵は佐々木小次郎との決闘のあと、二度と戦わず深く仏教に帰依したとも聞いています。





古川古松軒の『西遊雜記』にも、
 一対一の約束を武蔵之助が破り門
 人四人を連れて舟島に渡ったのを
 見た浦人たちが岩龍(佐々木小次
 郎)をとどめたが、「武士が約束を
 破るは恥だ」と。そして、岩龍は討
 たれてしまう。浦人たちは岩龍の
 義心を感じてこの舟島に墓を作り
 冥福を祈り、それ以来ここを「岩龍



島」と呼ぶようになったという。
 面白いのは、佐々木小次郎が巖
 流島で使ったという木剣が伝わり、
 私の親戚がそれを所持しています。
 その木剣を再現したものが、現在、
 和良久で使われている「劔(つるぎ)」
 なのです。しかもこの劔は、記紀に
 出てくる「天の瓊矛」(ぬぼこ)に由
 来するといわれ、佐々木小次郎が

何が真実か、もちろんわかりま
 せんが、縁によって色々なことが知
 らされます。川口素生著の「佐々木
 小次郎」という本を見つけ、その中
 で驚くべき事実が出てきました。
 熊本県宇土市に「巖流」を引き
 継ぐ中村家があり、なんと「巖流棒」



その伝統を受け継いでいたと言わ
 れているのです。



という長短二種の劔が伝承され現
 存しているのです。その写真も本に
 載っており和良久の劔そっくりです。
 佐々木小次郎の慰霊祭を来年
 も楽しみにしております。

富田水と徳松

彦島の近代産業遺跡

宝がある。
そこにいたる屏がある。
わたしは、宝へいたる案内人。
この彦島に縁をもつた理由を知らんがため。
まずは、「産土」に寄稿の機会をくださった彦島八幡宮宮司 柴田宜夫様にお礼を申し上げます。これから、ご案内するのは彦島老の山、老町二丁目藤ヶ迫にある産業遺跡とそれを拓いた富田徳松のおはなしです。

富田徳松は、彦島旧家の末裔。
明治十九年十二月の生まれ。
昭和三十年の十月に彦島老町で六十八才の生涯を終えています。

以下は、昭和元年に関門報知新聞社から発行された「彦島大観」から引用した徳松氏の人物評です。

彦島町会議員中の年少者として雄弁家として君を論評して見よう君は彦島土着人としての特色たる保守派ではない頭の新しい方で進取的の氣象に富んでいる十数年前大望を懐いて新附地朝鮮へ押渡り可なり大袈裟な開拓を試みた最初の計画は順調に進んだ成功の緒に就きかけた際遽に世は不況のドン底へ超人君の事業も一頓挫を来したのである勇猛の志も運命の力には抗し難く一応事業を整理し古山に帰ったのは数年前のことである墳墓の地は矢張り山川とも変わりになく君を喜んで迎えた。そしてその人材を見捨てては置かなかつた区長となり議員に推選されたのである純朴な郷里の人の頭にも君の新進の頭脳と手腕とは信頼したのである議政壇の君は何時も滔々として民福の為に雄弁を揮い新米議員としては花形と謳われていた資性快活にして忌憚なく語る彦島の水道なきを慨し独特に貯水池を造り自他の為に使っている実に来るある議員として特に紹介するものである。

※原文の一部を現代漢字に改めています。

この人物評を、議会議員、名士に対する評論と割り引いて考えても、氏の気性は好奇心に富み、革新を追求・探求する姿勢がうかがえます。

しかし徳松は、格別に最高学府で技術や論理を学ぶ機会を得ていたわけではなかったようです。

家族の記憶によれば、部屋ではいつも机に向かい、書物に没頭していたそうです。

畑仕事の時も書物を手放す事もなく、その関心のむくところを独学で会得。

野に咲く花。研究家、アイディアマン。
里山を好む性質も焼けた顔が語っている。

身長も体格も、当時としては大きい方です。
いわゆる技術・文化系でひ弱なイメージとは、いささか違っている。

生涯、およそ十三件の特許をとっています。
列挙すると、潮の岬沖における潮流発電技術。

沈没船の引き揚げ工法、落下傘の改良、水中電動ポンプなど。さらに有明海の干拓事業を九州の各県知事に提唱するなど、いちばやく多岐にわたっています。

さて、彦島大観の文中に「彦島の水道なきを概し独特に貯水池を造り」とあり、富田井戸に触れられています。

さらに、案内人が富田井戸をなぜ、近代産業遺跡と遺構と称しているのか、その理由を以下に記述いたします。

まずは彦島の産業遺跡・井戸が誕生する背景から

明治の下関は、西洋とアジアにむけて開かれた国際的な港町になっていました。

それがゆえに、新しい疫病も流行しました。

とくに生活用水を井戸にたよっていた市民は、何人もコレラの脅威にさらされ、そのたびに多くの人が亡くなっています。

そこで、下関市に上水道を建設することになりました。

市が招請した英国の技師バルトンによる視察建議によって、内日に貯水池がつくられ、高尾に浄水場も完成。こうして市民が待望した水道の給水がはじまりました。

明治三十九年のことです。

徳松はこのとき二十歳。



昭和3年(1928)7月 富田井戸の風景
●白いシャツを着て、柱に手を添えて立つ人が富田徳松

にも相談があったと思います。

徳松の二十歳の記憶が後押ししました。

「井戸を掘る。」
そして彦島の人々が自由につかえる水道をつくるう「こうして、富田の個人事業、産業振興と地域の民生向上を目的にした富田井戸と水道事業がスタートします。

上水道事業を興すには、長い工期とそれに応える莫大な財力と資金も必要でした。

また島特有の独創が必要だったことも容易に想像できます。

徳松の決断は、この事業のために私財をなげうつことでした。

優れた工器具もない時代、人力をたのみに、みずからも工夫にまじっての力仕事のすえ富田井戸の給水開始。

徳松三十代です。

以下は、その事業施設の概要です。

老の山の地下水をくみ上げる井戸は、深さが二五メートル。井戸が掘られた場所もちょうど海拔二五メートルです。この高低差を利用して本村の製氷工場まで水を送る。

井戸の底に設置したポンプで地表までくみ上げます。水中ポンプは徳松の特許製品。

井戸から五〇メートルほど下ったところに、浄水場がありました。

ここでは、三面の緩速る過池をとおして地下水を浄水にします。いわば水の工場です。

この池は三面あって、ひとつの池には鯉が泳いでいました。

ここからさらに五〇〇メートルほど黄紺川に沿いながら本村工場まで水道管が通されました。川は、今は暗渠となつてその流れを見ることはできません。

製氷工場へ向かう途中の二カ所には近所の人が自由に使える蛇口がありました。

ひとつは浄水場のすぐ脇そばに、もう一つは本村の警察官駐在所の裏あたりです。

製氷工場は彦島運動場(本村三丁目)にありました。一带は、とてもにぎわっていたそうです。

富田井戸の給水能力について。一日の給水量は約二百トン。これは、平成のいまの使用量に換算すると約二九〇世帯分に相当します。

富田井戸と浄水場設備が完成したことで水不足もいふんと緩和されました。

かつて工場では濁水のために対岸の門司まで船で水を買に行ったりしていましたが、そうしたことも減りました。

やがて産業振興と生活の利便を目的に始まった富田井戸は、いつとはなしに彦島の「富田水」と親しく呼ばれるようになりました。

そして昭和十年、彦島町と下関市が合併したことにより彦島にも水道給水が始まります。

これによって富田井戸の役割が大きくなりかわりました。

遠洋漁業もだんだんに衰退します。

昭和三十年、事業を興した徳松が他界。

昭和四十七年には、日本冷蔵本村工場閉鎖。

こうした町の、彦島の盛衰のかけで、富田井戸はコンクリートで、ひっそりと重い蓋がされました。

残念なことに、富田井戸の全容も徳松が持っていた特許に関する資料のすべてが、戦後間もなく進駐したアメリカ軍に接収され、現在残されていません。

西山小学校の児童たちが、彦島探検学習の一環として「富田井戸」を見学する機会がありました。そのときのエピソードです。

井戸の持ち主で、徳松さんの長女、富田博子さんの説明をうけた児童のひとりが、こう質問しました。「井戸を掘ったことで何かを得たのですか」当然その質問には事業としてお金を得るためでしょう。という意図があったのでしょうか。そんな質問に「誇りです。富田の誇りです」と富田さんはこたえています。



富田井戸開鑿百年祭 平成28年3月30日 彦島八幡宮・柴田宜夫宮司

コンクリートの蓋がされたその後の富田井戸の様子に触れておきます。

井戸の上には、管理小屋が建てられ、そこには水を祀る神棚が祀られています。

その小屋の脇には、富田徳松の顕彰碑。

井戸を掘るときに使われた道具「お神楽さん」も見ることが出来ます。

井戸からくみあげるための新しいポンプも設備され、近所の人たちが利用しています。

平成二十八年三月、富田家によって小屋のなかに「富田井戸」の概要を記した説明板が完成しました。

いよいよ末尾となりました。

移り行く世相・私情がせめぎあう現代。漂とした精神を守りながら生きる「文化と誇り」のまちへ。

わたしたちの在り方を考えずにはいられません。私財を投じて、産業と地域の人たちの便利を思い、

井戸を掘った富田徳松を忘れてしまうのは、あまりに寂しいものです。

新しいものも、古いものも無い 産土・彦島を 誇りつくよ ちいびんべいじょうか

三月三十日「富田井戸」は、事業を興して百年の節目をむかえました。

彦島八幡宮から宮司様をおむかえして、富田徳松と井戸を顕彰する「富田井戸開鑿(かいさく)百年祭」が執り行われました。

その日は、井戸の前にたつ若木の桜花が誇らしげで華やいだ日でした。

式典のあとで、徳松の墓前にお孫さんの手から「富田水」の一椀がそなえられた。

椀のなかに青い天空を映して。



富田井戸の全景

富田井戸へいたる道筋は、老の山公園口バス停から下関中等教育学校へ坂をのぼります。坂の途中をふく料理・たまやの看板前を右折。その下り道は、黄紺川バス停に通じています。その道を下るとすぐの左手に大きな駐車場があります。藤ヶ迫駐車場です。

その駐車場の奥に富田井戸の管理小屋が見えます。井戸を見た後、こんどは黄紺川バス停方向へさらに坂を下ると、三叉路に出ます。

駐車場になっています。そこは緩速ろか池・浄水場の痕跡です。近所の人が利用していた蛇口のあとも見つかるでしょう。

そこからの下り道。製水工場へ給水した水道管の名残を探してみてください。



日冷株式会社が健立した顕彰碑

参考資料 「彦島大観」

「のびゆく彦島」

「日本冷蔵株」からの感謝状」

新聞「新九州」昭和二十六年八月十四日号

平成二十八年五月 浅井仁志 文責

祭事暦(平成二十八年下半期)

文月(七月)

二十九日 夏越大祓式・菅拔神事
三十日 夏越祭本殿祭・御神幸祭・海上渡御

葉月(八月)

七日 まほろば字級

詳細は夏休み前に、運営委員会より彦島地区各小学校に配布されます申込パンフレットをご参照下さい。

長月(九月)

八日 若宮神社例祭・平家踊り奉納
二十三日 秋分祭秋季祖霊祭

下旬 観月祭

神無月(十月)

十七日 神嘗奉祝祭

二十二日 秋季例大祭・前夜祭
二十三日 秋季例大祭・本殿祭・御神幸祭
無形民俗文化財『サイ上り神事』
午後三時



霜月(十一月)

上旬 懸崖・菊花展
三日 明治祭

明治天皇さまのご生誕と「聖業を讀るとともに」ご皇室の更なる「繁栄を祈願する祭事です」

十五日 七五三祭
二十三日 新嘗祭

新穀を御神前へお供え致し、本年の収穫を天神地祇(八百萬の神々)に感謝申し上げます。

師走(十二月)

四日 大注連縄奉製・煤払式
二十三日 天長祭

今上陛下の御誕辰を言祝ぎ更なる皇室の弥栄をお祈りする祭典です。

天長祭とは、古来、唐の玄宗皇帝の誕生日を天長節と祝った事に由来します。天長とは老子の「天長地久」という言葉に由来し「天にとしえなる事」の意を含んでいます。

正月臨時巫女奉仕者説明会
三十一日 大祓式
除夜祭

夏越祭のぶし案内

夏越大祓

七月二十九日(金) 午後五時斎行

茅ノ輪をくぐり、身についた罪穢れを祓い清めましょう



御神幸祭

七月三十日(土) 午前八時発輿

一年に二度の彦島各町内への御巡幸です。最寄りの御旅所にご参拝下さい



海上渡御

七月三十日(土) 午後三時出船

ご祭神を御座船に奉じた大船団が大海原を進みます。

彦島海士郷町の漁港を出港、下関漁港内を周遊し南風泊漁港に至ります。
☆拝観の見どころ
彦島海士郷町・伊崎町・大和町の岸壁、彦島ナイス・ビューパーク



夏越祭

御神幸順路と到着予定時刻【7/30日(土)】

本宮御発輿 → 正面鳥居左折 → 下関三井化学内 → 三井化学前信号を直進 → 十二苗祖墳墓 → 卯月峠經由 → 本村四つ角を右折 → 後山 8:00 8:05 8:20 8:25

ジョイフル彦島店裏側坂を上り進行 → みやぎ理容院を右折 → 南国マンション・山口整形前交差点 → 県道を横断 江の浦2丁目坂を 8:35

直進 → 関門トンネル上を右へ → 塩谷公園横を通過 福浦2町へ → 日ポリ産業前 → 山口三菱自動車角右折進行 → 日本歯科薬品前 → 8:45 8:50 8:55

福浦橋を渡り塩浜へ → 塩浜町民館前 → サンデン彦島営業所内 → 大通りを進行 県道横断向井町を經由 山中町民館前 引き返し桜ヶ丘 9:10 9:20 9:40

入口より峠を越し弟子待徳岡商店横を直進 → 弟子待町民館前 → 弟子待を出て 弟子待保育園 を下り左折 → 芳無田公園方向へ右折進行 → なかべ学院 → 角倉町民館方向へ → 角倉公園 → 福浦山口銀行前 → 杉田バス停信号を右に進行 → 三菱至誠寮前を左に上り江 10:10 10:20 10:35 10:45

の浦8丁目中通を進み県道に出て右折 → 菱重ファシリティー&プロパティーズ(株)西日本支社前 → 三菱下船工場内 → 江の浦町民館前 11:10 11:20 11:55

→ サンセイ下関工場内 12:10

昼食 (於、本村公会堂 TEL266-2219) 12:20~13:50

出 発 → 老町 → 貴布禰神社階段下 → 海士郷恵比須神社前「漁協彦島支店にて海上渡御準備」出 船 ~ 下関漁港内一周 ~ 14:00 14:10 14:25 15:00

小戸口、彦島大橋下を抜け ~ ヒコットランドマリナービーチ沖を通過 ~

(西日本有数の御座船による“海上渡御”)

南風泊魚市場岸壁に上陸 → 魚市場前 漁協南風泊支店前 → 県道右折竹の子島に渡り前田造船所前 引返し → 西山町自治会館 → 15:35 15:45 15:50 16:10 16:30

彦島製錬 → 県道右折進行 → 彦島八幡宮前通過 → キャボットジャパン引き返し → 荒田、絞バス停手前を左へ上り旧道を進行 → 16:45 16:55

彦島豆腐工場前を通り県道を右へ → サンリブ彦島迫町店 → 本宮御還幸 17:10 17:20

_____ :修祓(一旦停止)箇所 ~~~~~ :お旅所(祭典、小休止)箇所

◆秋季例大祭を前に、
一年に一度は「彦島の原点」へ

彦島開拓の祖「彦島十二苗祖」の遺志が
籠る墳墓へ参拝下さい

下関市彦島追町四丁目四・一二付近

当宮創祀者である河野通次は保元の乱に敗れた後、園田一覚、二見右京、小川甚六、片山藤蔵、柴崎甚平を率いて彦島の地に敗走し、その二十有余年後には、植田治部、岡野将監、百合野民部、和田義信、登根金吾、富田刑部が来島して総勢十二名の将を中心に一族郎党が農耕漁釣に精を出し彦島を開拓しました。以来「彦島十二苗祖」と称えられています。

今日も末裔の方々が、「サイ上がり神事」をはじめとする伝統神事を継承されています。



八幡様の知恵袋 その三十一



こまいぬ
狛犬

狛犬は元来犬ではなく「獅子」を模ったものに由来します。起源は古代インドまで遡り、仏の守護獣とされたライオンの像とする説が有力であります。古代オリエント諸国にも神や王位の守護神として奉られ、シルクロードを経て朝鮮半島から仏教と共に日本(飛鳥時代)に流入したと考えられています。語源も朝鮮の「高麗の犬」と解釈されます。

今日神社で多く見る狛犬は本殿正面左右などに一対で向き合う形、又は守護するご祭神に背を向け、参拝者と正対する形で奉安される事が多く見受けられます。

日本で最初に狛犬が奉安されたのは、平安京の清凉殿(内裏における殿舎)と伝えられ、四方を帳により囲まれた天皇様の御座の南北に奉安されていたそうです。日本に伝わった当時は、向かって右が口を開ける無角の獅子(阿形)と向かって左が口を閉じている有角の狛犬(吽形)とが一對とされていましたが、現在では何れも狛犬と称されることが一般的です。各地の神社に残る神話や故事から、狛犬と同様の役割を果たす守護獣として猪・龍・狐・狼・虎などもあり、これらの動物は神様の遣わされた眷属として「神使」と称されています。ここでは、当彦島八幡宮を含め、摂社、兼務社、末社の狛犬を幾つか紹介致します。



(兼務社 田ノ首八幡宮)



(彦島八幡宮)



(末社 貴布祢神社)



(摂社 大歳神社)



(宮司邸内社 春日神社)
※玉取り狛犬

神道豆知識

- 兼務社…宮司が数社の神社を兼任している場合、専従する神社を本務社と称し、それ以外の格を有する社。
- 摂社…本社の境内もしくはその付近に、御祭神に縁故の深い神を祀る社。
- 末社…本社に付属する境外にある小規模な社。

安産祈願祭・腹帯清祓のご案内

彦島八幡宮は別名『子安八幡』とも称され、安産の神様としても崇められております。

ご持参頂いた腹帯(ガードル)に当宮の「安産守護」の御朱印を押印させていただきます。

*平成二十八年下半年期の戌の日

Calendar table showing dates from July to October with corresponding days of the week and festival names like '先大安', '先大赤', etc.

七五三参拝の御案内

下記の通り、今年七五三をお迎えになるお子様を御家族の方共々にお祝い申し上げます。

お守り、千歳飴、知恵おこし、おもちゃをご用意致して、ご参拝をお持ち申し上げます。



Table with 3 rows detailing the 7, 5, and 3-year-old festival (七五三) activities, such as '髪置' (hair setting) at 7 years old and '袴着' (kimono wearing) at 5 years old.

彦島八幡宮会館 瑞鳳殿の御案内

お食事・仕出しはお任せ下さい

会席料理から各種オードブル、お刺身の盛合せ、御弁当までお気軽にご相談下さい。

(予約センター連絡先) TEL〇八三―三三四―〇七三三

【午前十時三十分〜】

▼当宮でお召し上げりの場合

*洋ホール二〜一〇〇名様まで対応

*和室十二畳(※六畳2部屋) / 和室二十畳(※十畳2部屋)

【和室会席の場合】定員三十五名

▼配達の場合

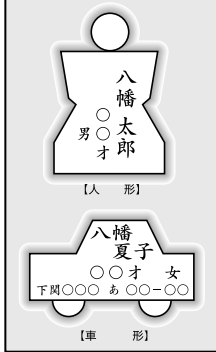
*各種様々なお弁当・刺身・オードブルを配達致します。お気軽にご相談下さい。



夏越の大祓

大祓人形でお祓い致します

人形に氏名・年齢・男女の別を記入※車形の場合は、車のNo.プレートも記入し、息を三回吹きかけ、分魂を宿らせます。こちらを夏越祭(七月二十九日)までに社務所までご持参(郵送)下さい。



※人形並びに車形は社務所にてお頒ち致します。郵送も致しますので、どなた様もお気軽にお申出下さい。

奇跡を発動する神宿る磐座

彦島八幡宮ペトログラフィ

当宮には古代文字(シユメール文字)が刻銘された巨石が奉安され、全国各地より参拝者が拝観のため訪れます。

自然崇拜にもとづく神宿る聖なる磐に神様を感じ、神様の威大なる力を戴かれて下さい。

※詳細は当宮ホームページを参照下さい。



謹んで地震災害の

お見舞いを申し上げます

此の度の熊本県並びに大分県で連続して発生した地震により、犠牲にられました皆様、深く哀悼の意を表すると共に、被災された多くの方々、関係者の皆様、心よりお見舞い申し上げます。

彦島八幡宮

- List of names and titles of staff members, including '代表役員 宮司' (Representative Board Member, Priest) and '責任役員 総代表' (Responsible Board Member, General Representative).

発行所 彦島八幡宮社務所

下関市彦島迫町五丁目十二番九号
TEL 〇八三―二六六一―〇七〇〇
FAX 〇八三―二六六一―五九一一
ホームページ http://www.hikoshima-gu.net

編集者 山本光徳
題字 柴田宜夫

平成二十八年七月一日

印刷・(株)ナカハラプリンテックス